

中日新聞の五面に【岐阜県の奥美濃に「拝殿踊り」という盆踊りがあるそうです】。少子化問題を一挙に解決できそうな文句であります。「わしとおまえさんは卵の中よわたしや白身で黄身を抱く」、粋でありんす。「卵の中」現実実があつてユーモアもあります。最近は同性問題が取り沙汰されていますが、同性で雛が孵える事はありません。私は同性には友と言う言葉が付き、友達以外の何者でも無いと思っています。気が合うから、そこに友情や友愛が芽生えると思っています。心・魂・思いが自己の肉体を動かしているのは間違いないと思う。ただ、無意識のうちに肉体が動くことも多々あることも間違いありません。驚いた時や偶然衝撃を受けた時などには無意識のうちに体が反応しています。防御の潜在意識です。意識・思いに従つて手が動き・足が動きまわす。しかし分別のない人は、時として殺人を犯すこともあるのです。思いの偏見です。心は本来無色透明だと思ひます。動きの結果として、色がつくと思ひます。心に黒く濁った色が付かないような思慮分別が求められます。自分の思い通りに成る世の中はありません。自分の思い叶わぬ事を他のせいにする事だけはやめましょう。完全無欠な人間なんていません。皆な何処かに、欠落した部分があります。それが人間なのです。囲われた社会の中であっても、生きてる事にまず感謝です。前にもお話致しましたが、人生の結びつきは全て御縁でございます。一期一会の繰り返しです。偶然の様に感じる事がありますが、偶然は無いのです。しかし、事の判断は自分に任されています。例えそれが宗教であっても、その団体が、金儲けの手段に宗教を謳い文句にしているやも知れませんが。見極める眼力を持たねば成りません。騙される己が未熟と言う事になります。幸・不幸を始め自分の弱点を突かれると人間弱いものです。付け込まれるオレオレ詐欺も、その一種です。

町田宗鳳師が面白い事を言つてみえます。【現代人は、多かれ少なかれ「ヒ素中毒」にかかっています。ヒ素とは三つの「ヒ」が付く言葉、つまりヒカク・ヒガミ・ヒテイです。ヒカクとは他者とジブンを比較して優越感をもったり劣等感をもったりしています。云々。優越感も劣等感も、間違ひなく自己への冒涇である。世の中に埋もれるように慎ましく暮らしている人の中にも、ヒガミとは無縁に、非常に満足度の高い生活をしている人も沢山います。友とすべき人は、そういう人です。人の中には何事も否定的にとらえて、またそれを口にする人がいます。常にジブンの体験することを愚痴にもつていき、美しいものを見ても美しいと感動する力がなく、何事にもケチをつけてしまうのです。こういう否定的な想念におおわれている人の顔は暗く、どこか歪んでいます。】と、何となくヒトのせいにしたく成る。自己とは弱いものです。大きな声で相手を罵倒してみたり、かと思えば猫なで声で、迫つてみたり、発した言葉はやがて「ごだま」となつてジブんに返つてくるのです。怖いですよ。最近衣食住と言う言葉が聞かれませんが。大切な家族を守る言葉であり、生活するのに、必須条件であると思ひます。体一つに衣は多すぎ、食は出来合いで済みます、ご馳走様といえず、住屋に庭なく家庭と成らず。余裕も無いが、何が大切であるのか再考してみたい。